

18 交通

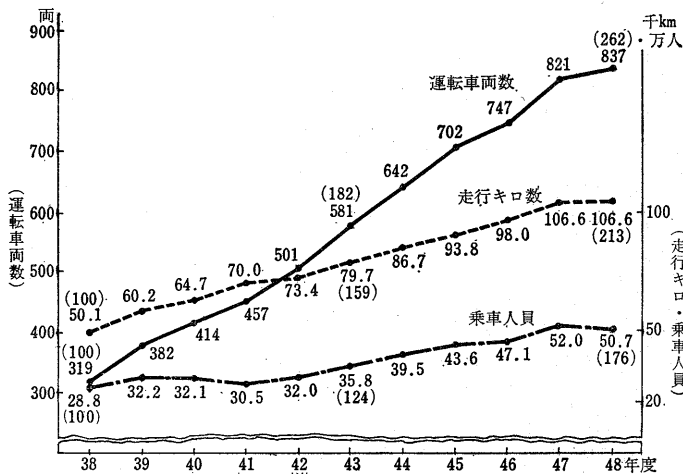


横浜の一〇年

地下鉄の建設とバス網の整備

横浜では、市電にかわる近代的交通機関として地下鉄の建設を進めるとともに、バス網の拡充整備により「市民の足」の確保に努めている。しかし、市バスはこの一〇年間に運転車両は二・六倍となったが、走行キロ及び乗車人員は運転車両の伸びを下まわり輸送効率が低下している(図-104)。この主な原因は、自動車の急増にともなう道路混雑が激しくなり、市バスの走行速度が著しく低下し、定時運行に支障をきたしていることにある(図-105)。そこで、地下鉄開通にともない、関連系統の路線再編成、人口急増地域への輸送力増強を進め、あわせてバスレーンの拡充、停留所施設の改善、駅前広場の整備に努めている。また、地下鉄については昭和四十七年十二月開通の上大岡・伊勢佐木長者町間に引き続き、鋭意工事が進められている。二号線・四号線についてはルート、実施方法が再検討される(図-106)。

図-104 市バス1日平均運輸状況



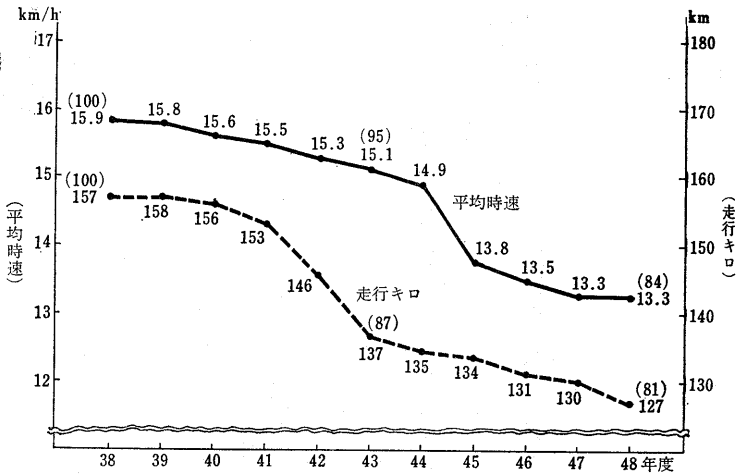
〔注〕 () は昭和38年度を100とした指数

〔資料〕 交通局



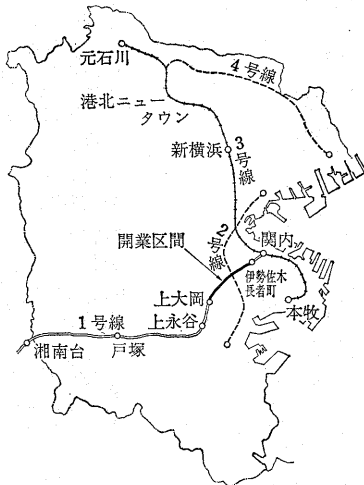
交通

図-105 市バスの平均時速及び1日1車当り走行キロ



[注] ()は昭和38年度を100とした指数
 [資料] 交通局

図-106 横浜市高速鉄道路線計画図



[資料] 交通局